

そわにえ Soigner

第8号

『Soigner (ソワニエ)』とは、
「世話をする・手当をする」という意味の
フランス語です。

2007年1月25日発行



発行/東京訪問看護ステーション協議会 (責任者 森山弘子)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17
社団法人東京都看護協会内
TEL : 03-5229-1534・1520 / FAX : 03-5229-1524

| | |
|----------------|---------------|
| INDEX/ | 委員会報告……………⑤ |
| さんぼみち……………① | 届け!現場の声……………⑥ |
| 第二回座談会開催……………② | ブロック会報告……………⑦ |
| ステーション紹介……………④ | 編集後記他……………⑧ |



「忍野村から見た富士」村田比佐志さん 作

先日、ファミリーレストランでランチを食べようとした際に、店員さんに「ライスにしますか?パンにしますか?」と聞かれて、いつもどおり迷わずライスにしたのです。

そして、出てきたハンバーグとライスを食べるときに、ふとナイフやフォークの入っているカゴを見ると、お箸が入っていました。つい習慣で、そのお箸を手に取って食べていたんですが、ふと思うことができました。ファミリーレストランはなぜいつまでも、ご飯をお皿で出すのだろうということです。欧米でライスがランチについて出てくるとは思えません。また、どこのご家庭でも、ハンバーグのときにお皿にご飯を盛り付け、ナイフとフォークで食べているとは思えないのです。お箸までつけて出すならいっそのことご飯はお茶碗に盛って出してはいけないのでしょうか。

多分このスタイルは、日本人が欧米に強い憧れを持っていた時代の名残ではないかと思うのです。ですが、その代わり映えのしないスタイルが、今のファミリーレストラン衰退の原因ではないかと思ったりします。

私たちの今の仕事を考えてみても、形骸化したことなどが沢山あるような気がします。先般やっと実現した医療連携体



制加算ですが、これまでは「グループホームは生活の場なので、医療が入ることがおかしい」などの意見で反対する人もいました。生活の中では病気になれば医療のお世話になりますし、病気を予防しようと思います。グループホームでの生活になってしまったために、それまでの生活で受けることが可能になった医療を受けることが出来ないこと自体がおかしな話なのです。

そこで、医療連携体制加算がスタートし、グループホームで訪問看護などを受けることができるようになりました。やっとどこで生活しても安心できる制度に一步近づいたのです。ですが、やっとできたこの制度もその本質を理解せずに、形だけ連携さえとればよいと思う人たちが出てくると、あっという間にこの制度も形骸化するでしょう。

ぜひ、グループホームで働く介護職の方も、グループホームを訪問する看護師の方も、この制度がなぜできて、誰のために必要であったのかを考え続けていっていただきたいと思います。そうすることが形骸化することを免れ、次に必要な形を模索することが出来ると思うのです。

NPO法人ミニケアホームきみさんち 理事長 林田俊弘